

# マクロからミクロへ： オーストラリアから見たSOTL

コリン・ジェヴォンズ准教授

ミシェル J. イーディ准教授



# 国への謝意

ミシエル：私は、昔からこの土地を守ってきた人たち、ダラワル国のWodi Wodi族、そして過去、現在、未来のすべての長老に敬意を表します。

大地の根から木々の先端に至るまで、土地、動物、水路に敬意を表します。この土地で学び成長させていただいていることに感謝します。これからもこの土地を守るべく最大限の努力をして行きます。私たちは、自分たちがこの国を守れば、この国は私たちを守ってくれると理解しています。

コリン：そして私は、今日私が話しをしている土地を昔から守ってきた人たち、クリン国のWurundjeri族とBunurong族にも敬意を表します。私は過去の過ちを反省し、過去と現在、そして教育者として、特に未来の長老に敬意を表します。

# はじめに：コリン・ジェヴォンズ

- 私はオーストラリア・メルボルンにある学生数6500名を超えるモナシュ大学で経営学学士号コースのディレクターを務めています。フランスのIESEGで非常勤教授を、アメリカのオーバーン大学、ミシガン州立大学、そしてオランダのトゥエンテ大学で客員教授を務めています。私は、留学生のための英語・文化支援プログラムの開発など、これまでに多くの全学的イニシアチブに関わってきました。
- 研究分野は、学生の定着率と退学率、卒業生の就職率、学生の異文化コミュニケーション、ビジネス教育におけるクリティカルシンキングと懐疑的態度の指導です。私のh-indexは17で、これまでに11件の競争的研究資金を獲得しました。
- アカデミックキャリアに従事する前は、消費者調査と出版業界にいました。編集者協会（Society of Editors）の名誉終身会員でもあります。私のツイッターのアカウントは@colinjevonsです。

# オーストラリアにおけるSoTL – マクロレベル

ネットワークと研究グループの構築

しかしSoTLへの評価を示す必要がある  
質を証明するには？

引用？

学術誌のランキング？

研究集約型のアプローチ

# SoTL関連学術誌ランキングシステム

- 既存の専門分野別学術誌ランキングと並行してSoTL分野の研究を奨励する
- 教育部門のスタッフの仕事量や昇進申請に役立てる
- 教育担当者と研究担当者が昇進の際、教育分野をアピールする際に使用する

# SoTL関連学術誌ランキングシステム

- 国内の専門分野別ランキングでA\*またはAに分類されたすべての教育・学習関連の学術誌をリストアップする（ABCDおよびERA 2010）。
  - 簡単だがうまくいかない
- そこで、我々は困難な作業を行なった
- 学術誌の「インパクトの強さ」を測るために、3つの数値指標を使用した。SNIP、SJR、Citescoreである。これらの指標のいずれかで上位40位以内に入ったジャーナルをA\*とした。次の120誌についても同様に「A」とした。
- 次の140誌は「B」、残りの学術誌でプラスのスコアがあるものは「C」とした。この40/120/140の分け方は、オリジナルのERA 2010と一致している。

# SoTL関連学術誌ランキングシステム

- 使用した国際的指標では、「教育」カテゴリーを区別していなかったため、FORコードの使用をやめ、「教育」分野全体で1つの集約されたリストを作成した。したがって、非常に多くの学術誌が掲載されているが、今後間違いなく編集されることになるだろう。
- 総合ランキングでは、「教育」分野の学術誌1,463誌を対象としている。
  - A\* : 63誌
  - A : 173誌
  - B : 257誌
  - C : 970誌これらの多くは、単なるビジネス教育に留まらず、より幅広い関連性がある。



# はじめに：ミシェル J. イーディ

- 私は、オーストラリアのウーロンゴン大学教育学部（School of Education）の准教授で、HERDSA フェロー、ISSOTLフェロー、SFHEA (AdvanceHE)、そしてElon Centre for Writing Excellence Summer Instituteの研究リーダーを務めています。
- 質の高い教員養成への取組が評価され、全豪教育賞を受賞しています。研究テーマは、SoTL、遠隔学習/同時技術、アボリジニに関する研究、ワーク・インテグレートッド・ラーニング（WIL）、その他教育分野における最新の問題です。仕事の中心をなすのは、学生がWILの活動を振り返る際に、アカデミックライティングのスキルをどのように使うかを理解し、自分の経験を職場の期待や学んでいる理論的枠組みと結びつけることです。
- 私のツイッターのアカウントは @michelleeady です。

[https://scholars.uow.edu.au/display/michelle\\_eady](https://scholars.uow.edu.au/display/michelle_eady)

# オーストラリアにおけるSoTL- マクロレベル

- 公共性の高いSoTL
- アカデミックSoTL

# 公開型 SoTL ワークショップ

- SoTL に取り組むことは、質の高い教育実践の一環として行われるものであるが、「教育に関する研究は、優れた教育と同義ではない」ということを認識しておく必要がある
- Going Meta !
- ワークショップのデザイン

U O W

## Learning to speak SoTL

SOC Faculty SoTL Workshop #1

Mrs Corinne  
Dr Michel

SoTL involves:

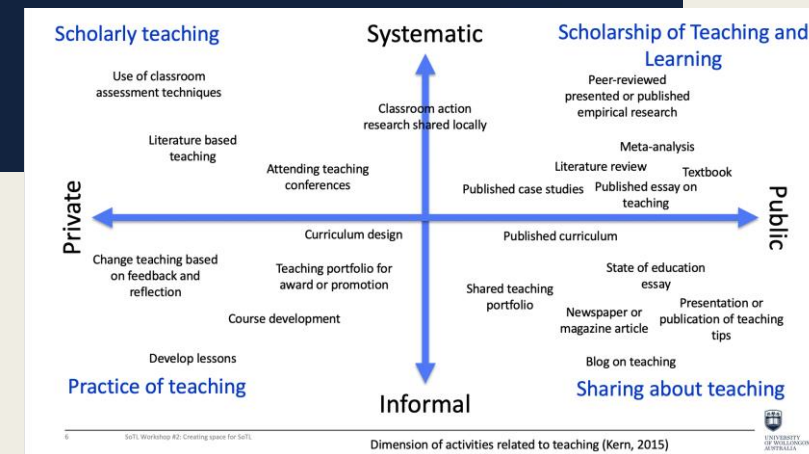
- asking **meaningful questions about student learning** and about the teaching activities designed to facilitate student learning,
- answering those questions by first **making relevant student learning visible** as evidence of thinking and learning (or **mis-learning**), and then systematically **analysing this evidence**,
- **sharing the results** of that analysis publicly to **invite review** and to **contribute to the body of knowledge** on student learning in a variety of contexts,
- aiming to **improve student learning** by strengthening the practice of teaching (one's own and others').

6 SoTL Workshop #1: Learning to speak SoTL

U O W

## Creating space for SoTL

SOC Faculty SoTL Workshop #2



# SoTL ワークショップの開発

- ワークショップを開発するにあたり、様々な主要なSoTL研究を参考にした。Boyer (1990)、Hutchings and Shulman (1999)、Felten (2013)などの文献を読み、これらの資料の多くはワークショップ参加者に対して事前課題として割り当てた。

# 4つのワークショップ

1時間のワークショップが4つ開発され、それぞれ以下のテーマを設けた。

- SoTLについて話せるようになる
- SoTLのための空間を作る
- SoTLプロジェクトを実施する
- SoTL研究を広める

# アカデミックSoTL

## SoTLにおける基礎的研究

- Boyer (1990): [Scholarship Reconsidered](#)
- Bass (1999): [The Scholarship of Teaching: What's the Problem?](#)
- Hutchings & Shulman (1999): [The Scholarship of Teaching: New Elaborations, New Developments](#)
- Felten (2013): [Principles of Good Practice in SoTL](#)

# 分野別研究からSoTL研究への転換

一つの例：マーケティング教育の奨学金 (Snuggs and Jevons, 2018) - 3つの代替

A brief summary of the futurescapes.

Futurescape	Potential outcomes
1. Addressing the void in highly ranked journals for SoME	Three options (or combination of):-The opportunity to publish in education journals regardless of discipline. - Improve the perceived quality and ranking of an existing journal. - Create a new high-ranking journal specifically for marketing education.
2. Looking beyond journals to disseminate SoME	- Set up a multi-discipline business education conference similar to FIE, the computing-engineering education conference. - Streamline the submission and review process, for instance preliminary review of abstracts to decide which authors are invited to write full papers.
3. Restructuring support mechanisms for SoME within business schools	- Increase institutional support positively for SoME through changing resourcing, narratives and culture (formal and informal). - Draw on the broader marketing community, such as ANZMAC, to support and reinforce the importance of conducting research in this area.

# この分野におけるイーディとジェヴォンズの論文

- Eady et al. (2021): [Re-positioning SoTL toward the T-shaped Community](#)
- Simmons, Eady et al. (2021): [SoTL in the Margins: Teaching-Focused Role Case Studies](#)
- Green, Eady et al. (2020): [Beyond the conference: Singing our SSONG](#)
- Eady et al. (2019): [Supporting Writing Collaborations through Synchronous Technologies](#)
- Jevons et al. (2019). [Exploring student futures as business graduates: insights from capstone and internship experiences](#)
- Snuggs & Jevons (2018). [Reconceptualising the scholarship of marketing education – SoME futurescapes](#)
- Jevons, C., and Lindsay, S. (2018), [The middle years slump: Addressing student-reported barriers to academic progress](#)



ありがとうございました！